

令和6年度 文京区立礪川小学校 授業改善推進プラン 〈2年生〉

	現状分析	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで発表したり、質問したりすることが好きで、意欲的に授業に参加する児童が7割くらいいる一方、挙手が苦手な児童もいる。</li> <li>・友達の考えをしっかりと聞き、そこから学びを得る児童も多い。</li> <li>・本が好きな児童が多く、読書活動を積極的に行っている。</li> <li>・日記や感想など、生活の出来事や物語の感想などを素直に表現できる児童が多い。</li> <li>・文章で表現するときに、語彙力が足りずに、何度も同じ言葉を使う児童が多い。</li> <li>・句読点や段落の構成など、表記に課題が見られたり、習った漢字を使わずに平仮名で文を書いたりする児童への手立てが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをノートに書かせる時間をつくる。少人数での交流を行ったり、ハンドサインを活用したりして、自分の考えを発表し、お互いの意見を認め合える指導を行う。</li> <li>・児童が読書活動を楽しめるように司書教諭と連携する。また、読み聞かせを積極的に行ったり、教師からお薦めの本を紹介したり、単元に関する本を用意したりすることで、本を身近に感じ、興味や関心をもてるようにする。</li> <li>・モデル文を提示し、文章を書くことに対する苦手意識を少なくしていく。また、見直しや校正を習慣付け、正しい表記が身に付くようにさせる。</li> <li>・身近な人にお手紙を書いたり、週末に日記を書いたりするなど、文章を書く活動を多く取り入れる。</li> <li>・学習した漢字の復習に力を入れて、何度も繰り返し練習することで定着を目指す。「とめ・はね・はらい」に気を付け、丁寧に書くように指導する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題に取り組む際に、問題文の解釈に課題がある児童が見られる。</li> <li>・たし算やひき算の筆算の仕方を理解することはできているが、時々、ケアレスミスが見られる。</li> <li>・ものさしの目盛りを正確に読み取ったり、指定された長さの直線を引いたり、きれいな直線を引いたりすることに課題がある児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文をていねいに読み取り、自分の考えを絵や図、言葉などで表す活動やその発表を聞く活動を繰り返し取り入れていく。</li> <li>・筆算をする際に、計算メモを見やすく書くよう習慣付けを行うとともに、ドリルやプリントなどを活用して繰り返し計算練習を行い、さらなる知識・技能の定着を図る。</li> <li>・ものさしを使って実物を測定したり、ものさしをしっかりと押さえて直線を引いたりする練習を繰り返し行う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時こくと時間の理解が他の単元と比べると浅く、時こくと時間が混同している児童が見られる。</li> <li>・知識と日常生活が結び付いておらず、例えば長さや水のかさ等、単位は覚えているがそれがどのくらいの長さ、量であるのか実感できていないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルやプリントを繰り返し行ったり、日常生活でも時こくと時間に触れることができる場面を多く取り入れたりする。</li> <li>・身の回りの長さや水のかさを計測したり、単位量の実際の大きさに触れることができるような場面を多く取り入れたりすることで、実感を伴った理解をすることができるようにする。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぐんぐん そだて わたしの 野さい」では、ミニトマトの水やりを欠かさずに行うなど、植物への興味・関心が高い。</li> <li>・ICTを活用して、写真を上手に取り入れた観察カードを作成することができた。</li> <li>・気付いたことや分かったことなどを分かりやすい文章にすることに、苦手意識のある児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きICT支援員と連携して、タブレットの使い方を学びながら、観察カードを作成する。</li> <li>・グループで話し合ったり、観察カードをお互いに見合ったりして、感想をお互い伝え合い、考えを深めさせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に声を合わせて歌ったり、体を動かしながら音楽を聴いたりする学習に、楽しんで取り組んでいる。</li> <li>・音楽に合わせて歌いながら歩いたり、拍に合わせてリズムを打ったりすることができる。</li> <li>・リズム遊びを通して、リズムの組み合わせ方や休符が入ることによるおもしろさに気付く姿が見られる。</li> <li>・鍵盤ハーモニカは、ロングトーンに取り組むことで、息使いに目を向けることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の声や伴奏と「合わせる」楽しさを味わうことができる活動、身の回りの音や音楽に親しむことができる活動を展開する。</li> <li>・音楽を聴いて感じたこと（楽しい、きれい、やさしい）や、気付いたこと（リズム、音色など）を、言葉や身体表現を通して表現できるように指導する。</li> <li>・様々なリズムに加えて楽器の音色の違いにも視点を広げ、音楽づくりの発想へとつなぐことができるように、気付きを価値付けていく。</li> <li>・鍵盤ハーモニカは、タンギング、息使い、運指等を、丁寧に指導していく。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの活動にも意欲的に取り組み、表すことを楽しんでいる。</li> <li>・友達と関わりながら活動することを好む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は造形遊びを多めに設定し、体全体の感覚や気持ちを生かしながら楽しく表すことができるようにする。</li> <li>・友達と関わる場面を取り入れ、造形的な面白さや楽しさを見たり感じたりすることから、楽しく発想や構想をしたり感じ方を広げたりできるようにする。</li> </ul>
体育	<p>○体カテストから 女子は長座体前屈・握力・反復横跳び・上体起こし、男子は長</p>	<p>○授業の際に定期的な持久走や障害物レースなど楽しみながら走ることができるゲームや縄跳び、バランスゲーム、ボール投げの練習を取り入れる。また、モチベーションアップで成績や学習の進捗を視</p>

	<p>座体前屈・上体起こし・50m走で全国平均を上回る数値が確認された。共通して、柔軟性・筋持久力が身に付いていると考えられる。</p> <p>全国平均を下回る数値が確認された項目は、女子では、20mシャトルラン・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ、男子では、握力・反復横跳び・20mシャトルラン・立ち幅跳び・ボール投げで、全国平均を下回った。男女ともに、全身持久力・跳躍力・巧緻性・瞬発力の向上が課題だと考え、2学期以降これらの向上を目指す。</p> <p>○学習から</p> <p>どの学習でも、ルールの理解や友達と仲良く活動することの大切さ、安全を理解して、学習に取り組んだ。</p> <p>特に、鬼遊びの学習では思考力の定着を図り、子供たちだけで作戦を考えた。また、走の運動遊びでは、様々なコースで走り、友達と楽しく競い合ったり、体の使い方を知ったり、運動することの楽しさに触れたりしながら学習を行うことができた。</p> <p>課題として、勝敗の受け入れが素直にできない児童が複数名見られた。また、ルールを逸脱して勝ち負けに固執してしまう児童も見られ、負けを受容する力が身に付いていないことも分かった。</p>	<p>覚的に確認できる掲示やワークシート等を用意し、達成感を味わわせる。</p> <p>○勝敗を受け入れる気持ちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共感する</li> <li>・負けた時の手本を見せておく</li> <li>・始める前にルールの説明をはっきりとしておく</li> </ul> <p>発達段階に応じて少しずつ受け入れる気持ちづくりができるよう、体育の学習のみならず他教科とも連携して児童へ指導する。</p>
<p style="text-align: center;">道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間における道徳的価値について、自分なりの思いや考えをもつことができる。</li> <li>・役割演技や劇、動作化を好み、登場人物の言動や気持ちを創造的に発揮することができる。</li> <li>・自分自身を振り返ったり、生活と結び付けて今後の言動を考えたりすることができるが、実際に生活に生かすことは苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳だけでなく他教科を通じて様々な道徳的価値を取り上げ、考える機会を増やす。</li> <li>・道徳的価値の理解だけに終わらず、自分事として考えられるよう学習の中や他教科で促す。</li> </ul>